

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

ひだまりの家

日付 平成 20年 3月 31日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験9年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

このホームでは管理者が中心となって、素晴らしい「ひなたぼっこ新聞」を毎月発行して家族に渡している。例えば1月(32号)では、SさんとNさんの家族の草取り応援隊も加わっての年末大掃除の様子・多数の家族やSさんの友人、掛かりつけ医F先生等の参加も得て大盛り上りの忘年会(F先生とOさんのお孫さんとは、今流行の「そんなの関係ねえ!!」を2世代コラボレーション。お寿司やハンバーグ等たくさんのご馳走にビールでパクパクお代り)・町内会の俵せ会9名の方がコーラス訪問(当日の見学者2名も参加して、みんなが声を出し歌い踊ったり、立ち上がって手拍子)等、日々の生活の生き生きとした様子が写真からも文からもよく伝わって来る。中でも、利用者一人ひとりの「このホームでの存在感」や「その人らしい、又、意外な一面」がリアルに捉えられていて、家族の立場で読んでみると嬉しくなってしまう。又、家族や地域、協力スタッフの交流や支援の状況もよく織り込まれており、この「ひなたぼっこ新聞」は、このままで「グループホームひだまりの家」の歴史」となるだろうなと思った。

このホームは、県下でも数少ない認知症専門病院「岡山ひだまりの里病院」のお膝元に開設されて5年足らずとなる。その間、利用者・職員共々殆ど異動がなく、互いにすっかり気心も知れ、顔見知り・仲良しの間柄になってしまっているので、笑い声が絶えない。発語が上手に出来ない状況の人も、その人なりの表現で一生懸命話しかけてくる。これは素晴らしい事だ。日頃からしっかりコミュニケーションが取れている証拠と感じた。炊事の達人・田圃や花のスペシャリストも居て、ここで暮しが生き甲斐になっているようだ。入居時車椅子の生活だったOOさんは、職員の手厚い支援で立居が保てるようになり、手引き歩行も可能になった。なるべく歩くような生活に戻ると、言葉も蘇ってきて家族も喜んでくれていると言う。今日もアルバムを介してお喋りしている時、私が「OOさん、これカッコエーな。映画俳優三船敏郎みたい」というと「ソーカ」とニコツとしてくれた。又、以前より入れ歯もなく、嚥下に問題があった人に歯科医の粘り強い協力を得て入れ歯を作り、今は自分で食べる事が出来るようになると同時に、多くの面でより良い結果を得ている等、スタッフの頑張りも数多く感じられるホームである。

特に改善の余地があると思われる点

スタッフの人材養成の為の方策や分担を工夫して欲しい。例えば「ひなたぼっこ新聞」は今でも素晴らしい内容だが、当番制にしてみれば視点やレイアウトにも変化が見えて良いだろうし、スタッフの「気付き」も増えるだろう。

家族や地域との関係は、より良い方向で進化していると思う。今の関係を一歩ずつ進め、膨らませて行って欲しい。あと一歩の前進で形が見えてくるものがある。

スタッフ全員の日々の気付きが、ケアプランに繋がっていく工夫が、次回には形に定着している事を期待している。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…改善項目なし。</p> <p>2、全体的に見て…「自宅からホームや病院等への暮らしの変化で、その人らしさやそれまで保っていた楽しみや習慣が途切れる事が一番悲しく辛い事ではないだろうか。私達スタッフがやるべき事は、それまでのこの人の情報や雰囲気をしっかり本人や家族から聞き取り、可能な限り継続して頂く為の努力をしていく事と思う」と管理者は話す。その為、新聞で家族への情報提供の呼び掛けをしたり、「昔の写真を持って来て下さい」とお願いしている。散髪の仕事に従事していた00さんに、包丁を研ぐ・タオルを干す・取り入れる・掃き掃除等の理髪業に関連の家事をお願いしてみ、張り切って仕事をしてもらっている。こんな姿一つでも多く想像し、実現しようと模索している。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…改善項目なし。</p> <p>2、全体的に見て…「海が見える所まで散歩」という生活記録がたくさん目に付くが、日当たり良く温暖で環境も申し分ないこの地に、周囲の家並に溶け込むような造りのホームが作られた。広い敷地に、ウッドデッキを挟むように建てられたホーム内も全体にゆったりとしている。みんなの作品コーナーや家族から送られた絵手紙等も飾られているリビングルームや廊下は、居場所も転々と設置され、それぞれのお気に入りの場所に納まっている。こういった環境の中で、各人のペースや思いが十分尊重され、「お年寄りが大好き」な職員の見守りや「一緒に何かする」事の多い日常となっている。だからこそ、今日のような明るく楽しい日々が続いているのだろう。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…「可能な限り自立した暮らし」を大きな目標の一つとしているので、買物や小額の金銭管理支援は非常に有効な手立てとなるだろう。又、マンネリ化してしまいがちな「身体拘束のないケアの実践」に対する学習も、一人ひとりの尊重・プライバシー保護にとっては欠かす事出来ない内容と思う。</p> <p>2、全体的に見て…「一人ひとりの力と経験の尊重」は、今、正にこのホームが一番取り組もうとしている項目である。全ての業務がここから始まっていると言っても過言ではないだろう。管理者が交代して2年目という今「この1年でどんなレールが引かれるか？」期待している。もうすでに実践出来ている事も多いので、「今日、何か見つかるかもしれない」「明日何か気付くかもしれない」というスタッフ各人のアンテナをしっかりと立て、それをどのように拾い上げ、形にしていけるか?を全員でよく話し合っって試行錯誤を繰り返して欲しい。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1、自主評価について…家族への取り組みは元より、地域交流促進や地域への還元への取り組みも、以前と比較して順調に幅の広がりを見せていると思う。焦らず地道に今の努力を重ねていけば良いと思う。</p> <p>2、全体的に見て…運営推進会議も2ヶ月に1回家族や町内会のメンバーも交えて良い交流が出来ているが、内容や出席者・形態にも変化をつけたり、会議後の活用も工夫してみたい。家族との協働も兆しが見え、良い協力関係が出来つつあるので、さらにもう一步踏み出して、家族会も家族主導の運営に近づけたい。又、利用者本人が自分らしい暮らしを取り戻す為の色々な仕掛けや準備は出来ているので、例えば「表町商店街の平和モニュメントへの折鶴作り」の時のように、社会に参画したり、晴れがましい場面に立ったり、00さんに脚光を、といった状況の一つでも二つでも増やしていけたらと思う。又、インシデント報告書やその後の予防の為の活用もよく出来ていて、大きな事故を防いでいる。</p>		